

唐松岳～雪洞初体験～

【報 告 者】 K田

【日 時】 平成29年3月18日～19日 【天 候】 晴れ

【参 加 者】 A屋・I藤・K田

《コースタイム》

17日:20:30 福岡発

18日:10:35 八方ゴンドラリフト- 11:30-八方山荘- 13:40 雪洞構築開始 18:30 雪洞完成

19日:10:00 出発- 11:30 2450m 付近撤退- 13:30 下山開始- 15:00 八方ゴンドラリフト

《 報 告 》

18日 八方アルペンラインゴンドラリフト乗り場は、スキーヤーで混み合っている。見渡すと、登山者は私達パーティーのみ。ゴンドラ～チェアリフトへと3回乗り換えるが、チェアリフトへ乗る時は、ザックを抱っこして乗る様、必ず注意する事！安全バーが下りず、お尻も半分しか乗らず大変怖い思いをします。(リフトから落ちなくてよかった・・・)



八方山荘よりアイゼンを装着し登山開始。汗が止まらない。ふと周りを見渡すと、言葉にならない美しい景色が広がっている！バックカントリースキーを楽しむ人達は、気持ちよさそうに滑っていた。日帰り登山者と多くすれ違う。

雪洞適地へ到着。ゾンデ棒で構築する為に必要な深さがあるか確認し、掘り進める。時間を無駄にしない為に、入り口を2箇所作り、最終的に空間を繋げる。2人で掘り進め、1人はシートに雪をのせ、排出作業を行った。掘り始めは、シートは必要ないが、シートがないと排出作業が非常に厳しくなるので、シートは必ず忘れない様にした。いかに無駄なく雪ブロックを掘り出すかが、重要となる。中腰での作業は、腰にくる。手が濡れない様ゴム手袋は準備していたが、膝をついて作業する為、ハードシェルが濡れ、足が非常に寒かった。入り口はツェルトで塞ぎ、もう片方の入り口は雪ブロックで塞いだ。A屋さんの的確な指示のお陰で、無事に完成！！慣れない作業の為か、思ったより疲れた～(笑)

暖かい飲み物を飲み、ホッと一息。水作りは、雪をわざわざ取りに行かなくても、天井、壁から取り放題！棚を作り、ろうそくに火を点けると、雪洞内が明るくなり、癒される。待ちに待った夜ご飯を食べ、ホットワインを飲みながら寛いだ。激しい風に打たれるツェルトの音が聞こえる。ロープを出してもらいトイレに行ったが、トレースが一瞬にしてかき消されてしまう程、風が強かった。



20日 5:00起床予定が、目覚ましをセットし忘れてしまい、6時前を知らせるアラームで目が覚める。水滴が落ちてくる事も、寒くもなく、雪洞の中はとても静かだった。夜の暴風雪で入り口のツェルトにどっしりと雪が積もっていた。まず、足で雪を蹴り上げ、ショベルを使い雪を掻き出した。作業をして下さったA屋さんI藤さんありがとうございました。

朝食のチーズリゾットを食べながら、今後の予定について話し合う。天気は回復する予報なので、様子を見ながら待機する事になった。9:00過ぎたら、きっと他の登山者が来るであろうとの予測に・・・数名の登山者が登って来た。

準備を開始する。ストック、アイゼン、ワカン、ピッケルは外に出していた。前夜の雪でワカンが1セット埋まってしまい掘り出すのに、時間がかかってしまう。

私達が出発する頃には、結構な登山者がいた。丸山ケルンより先に進むパーティーは少なかったが、私たちは進む事にした。順調に高度を上げる。2450m付近、ホワイトアウトにより先行者の姿が見えなくなった為、撤退となった。

雪洞に戻り、暖かい飲み物を飲みながら、しばし休憩。雪洞の中は暖かく、落ち着く。下山時には愛着が湧いていた。私達の後に誰か使った人はいるのだろうか？強風の中での下山となった。なんとチェアリフトも2回止まり・・・下界は穏やかに晴れ渡っていた。的確な指示を下されたA屋さん、細々とフォローして下さったI藤さん、大変お世話になり、ありがとうございました。

〈感想：A屋〉

雪の後立山連峰を望むべく3月の唐松岳を狙ったが、ガスと強風に阻まれ8合目付近での無念の撤退となった。晴天のピークに立つぞと意気込み、予備日も設けて万全を期したつもりだが、天気の読み違えで限られた好天の機会を活かせず、暴風雪での下

山となった。それでも初日の雪のパノラマビューは感動的であり、初めて挑戦した雪洞泊も思い出に残るものであった。

さて馴染みの少ない雪洞泊。雪に穴を掘り居住空間を作っていくプロセスは面白く、ブロック状にボコッと雪が取れる感覚は癖になる。何時間も夢中に掘り進めた。しかし、予行演習までして臨んだのにもかかわらず完成までに4時間以上の時間を要した。雪山でのビバーク手段として雪洞をもっと活用できるためにも気づいた改善点を記しておきたい。

①固くない雪質選び：十分な量の雪があることはもちろんのこと、雪中の氷結した固い雪層の有無をプローブの微妙な手ごたえで把握すること。固い雪の層があれば早々に諦め、別の場所で掘りなおした方がかえって効率的。

②切れ味の良い道具：スノーソーやショベルの雪に対する切れ味には差がある。雪にさす動作は何百回と繰り返すため、少しでも力をかけずに雪切り出せる道具を吟味しておくことは省力化につながる。

③効率的な雪の排出方法：掘った雪を外に排出するには想像以上の労力を要する。雪をブロック状に切り出すことはもちろんのこと、入口通路を外側に向けて傾斜をもたせシートやツェルトを敷き詰めることで、雪ブロックを押すだけで滑り台のように排出できると楽になるだろう。

④足の濡れ対策：掘削中は何かと濡れるためミトングローブやゴム手袋などの対策が取られているが、膝を雪について長時間作業するとハードシェルの内側が濡れ、足が寒かった。足の防寒やひざあて等の用意があると、後で快適だろう。

ガチャ類による事故防止：雪洞掘削中にショベルが頭に当たり怪我する場面があった。場合によっては行動不能で救助要請が必要になる場合もあり得る。ショベル・ピックル等のガチャ類は危険なものとして取り扱うようパーティ内での注意喚起が必要。

<雪洞構築について感想、反省点と今後の課題：I 藤>

まず、雪質や場所選びが難しいと考えられます。八方尾根の上ノ樺の斜面に構築している過去の記録を参考に、今回もその付近でショベルを掘り進めました。パウダースノーで、ショベルもぐんぐんスムーズに掘り進みます。(前月は、四国・石鎚山の二の鎖付近で構築練習をしましたが、雪質は固く、途中ブッシュや岩が露出した為、断念しました。)しかし、どんどん奥に掘り進むと、固い雪質につきあたりました。長丁場で疲労もあったせいか、横向きに雪を削り始めたその際、ガツツという音とともにショベルの先がリーダーの右の額に直撃してしまいました。幸い毛糸の厚手の帽子がリーダーの頭をカバーしてくれていたようで、大事には至りませんでした。(女性の顔面に直撃していればと思うとヒヤヒヤしますね。)ショベルも含むギア類の取扱いには、

ゆっくり慎重に扱うことが必要だと感じさせられました。また、狭い雪洞の空間には一人だけで作業をし、十分な広さがあるなら各々の作業の場所や体の向きについて確認しあい、誤っても交錯しないように掘り進める対策が必要となってきます。

ところで、皆さんの中には、雪洞に対する誤解があるかもしれませんが、意外とこれが魅力的であります。濡れない、壊れない雪洞のポイントとして、天井をドーム型にすることが基本となります。ドーム型により、上からの力に強くなり、天井が下がることもなく、また、水滴が壁面を伝わって流れるので、ぬれることもありません。

☆加えて雪洞を完成後の利点・課題としては、以下の通りです。

- ・テントのように強風によるバタつきで不安にならずに済みます。
- ・雪洞内は静かで、特に寒くありません。
- ・水作り用の雪がすぐ取れます。
- ・テントの窮屈さはなく、ある程度の広さを自由に使えます。
- ・キャンドルの炎が雪壁を照らして、幻想的な美しさを楽しめます。

☆注意点や考察は以下の通りです。

・構築には体力と時間が必要なので、効率的に雪をブロック状に切り出して運んで捨てるのが重要です。

・入口が広いと、外気にさらされたり、吹雪が強くと吹き込むので、掘り進める際には、大きくならないよう注意をします。

・入口にふたとして、ツェルトを被せて、横辺に雪ブロックを乗せて止め、紐の部分の上辺にはピッケルを通しました。

・翌朝には 100 kg位の積雪が入口を塞いでいました。（ドカ雪には特に注意が必要です。）垂れ幕（ツェルト）が雪できつく押さえられて、ツェルトを外すことが出来ず、内側からの除雪が難しく、30分位の時間を費やしました。

・臭いがこもることも考慮し、トイレは雪洞外としました。しかし、雪洞外は急斜面で立っているのがやっとなほどの暴風雪であったためロープで確保をしてもらいました。個人的には有難いと感じました。

今後も構築が上手く完成出来るよう、さらなる工夫や対策を考えていこうと思いました。

最後ですが、今回の山行もお世話になりました。登頂は出来ませんでしたが、無事に雪洞が完成出来たこと、冷静沈着なリーダーA屋さん、メンバーに色々とお気を使ってくれたK田さんに深く感謝いたします。